

悠久の京を訪ねて Part IV

Vol.13



KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER

京は古より人々が集い、その気候・風土の中、人々の生活が営まれてきました。

京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により、縄文・弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。

私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのか、出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

府内最大規模の横穴群 —女谷・荒坂横穴群—

■女谷・荒坂横穴群

おんなだに あらさか おうけつぐん
女谷・荒坂横穴群は八幡市の南部、京田辺市との境の丘陵斜面にあります。横穴とは、丘陵斜面を洞窟状に掘って造られたお墓で、中に入るための通路は天井の有無によって羨道・墓道とよびわけ、最も奥に造られた、亡くなった人を納める空間が玄室です。女谷・荒坂横穴群には300基を超える横穴の存在が推定されており、京都府内でも最大規模の横穴群であると考えられています。また、周辺の丘陵には、府史跡きつねだに狐谷横穴群や松井横穴群、堀切谷横穴群などの横穴群が集中して造られており、古墳時代後期に多く造られる横穴式石室をもつ古墳がほとんどない点がこの地域の特徴として注目されます。女谷・荒坂横穴群では当



見つけた横穴群（手前が墓道、奥が玄室）

センターが過去に60基の横穴を調査しており、平成24年度には、新たに19基の調査を行いました。今回調査した横穴は、出土した土器からおよそ1400年前の古墳時代

女谷・荒坂横穴群



後期に造られ始め、奈良時代前半にかけて追葬を行っていたことがわかりました。これは、最も新しい時期の利用となります。

■初めて見つかった石棺

34号横穴からは、女谷・荒坂横穴群で初めてとなる石棺が見つかりました。この石棺は、10枚の板石を組み合わせています。板石は加工痕から別の石棺を再利用したことがわかりました。この石棺は今後の公開に備え当センターで保管しています。また、37号横穴では、30点余りの鉄釘が長方形に並んで出土したことから木棺が使われたと考えられます。さらに、26・35号横穴から出土した人骨6体分をDNA分析した結果、6体とも成人男性で、血縁関係はありませんでした。横穴は基本的に家族のお墓とされていますが、家族以外の人々も葬られていることがわかりました。これらの横穴は周辺のムラに住む人々のお墓と考えられます。



34号横穴の石棺